



1. 『高橋の夢の一つ』

「俺、公務員やめて青年海外協力隊に入るわ。」大学2年生の夏休み、大学の親友が急に言いました。それまで「安定した生活を送る！」と言い続けた彼の言葉に驚かされ、「急にどうした？」と聞くと海外支援の活動に参加して、自分も変わりたいと思ったそうです。彼は現在カンボジアの貧村で支援活動を行っています。そんな彼を変えた海外支援活動に興味を沸いたのが、自分が海外に出る最初のきっかけでした。

彼の話聞いて、海外の活動に参加できる方法はないかと探していたとき、大学の掲示板で見かけたのが「CFF」というNPO法人でした。村と村をつなぐ道路を作ることもあれば、村の学校に赴き、学習支援を行うなど活動は多岐に渡っていました。早速応募し、全国各地から来た20人の仲間と参加することになりました。

村に着いてからの生活は想像を超えたものでした。風呂場やシャワーはない。ドラム缶に雨水を貯め、その水で頭や体を洗う。川の水を汲んだとしても感染症の可能性があるため煮沸しなければいけない。そのため、飲み水以外に水を使う場合は雨水や泥水を使わなければならない。何より衝撃的だったのは自給自足であること。植物や果物は勿論、鳥や牛を自分たちで狩り、自分たちでさばく。日本でペットとして飼われるような動物でさえ、本当にショックな生活でした。初めて鳥をさばいた日の夜は、さばいた感触が忘れられず、眠ることができませんでした。本当の意味での「いただきます」の意味を知ることができたと思います。日本や先進国では味わえない経験をしました。このまま続けて行けるのか不安でたまたま、『鋼の錬金術師』のように帰国までの残りの日数を木に彫ったこともあります。

ただ人間は本当に凄い生き物で、1週間もあれば環境に慣れてしまい、言語にも順応する。また、村民の方々の温かみが慣れる大きな要因であったと感じています。村民の方は、まるで家族のように自分たちを受け入れてくれました。「私たちのために活動している君たちを受け入れないわけがない。君たちは僕らの家族だ。」彼らの優しさに救われる想いでした。自分がいかに何も出来ない人間であるのか、そのことに気付かせてもらいました。自分はちっぽけな人間であるからこそ他者を尊重し、謙遜して生きるべきだと。

実際の活動の話をする、大きな目標は村と学校をつなぐ道路の舗装を行うこと。道は荒れていて子供達は学校に行くまでに徒歩3時間。勿論バスもない。自転車で通学できるような危ない箇所の道路整備を行うことが我々のミッション。勿論手作業。日本で昔、使われていたセメントの技法で舗装し、1ヶ月近くかけて完成させるものでした。

また自分の活動は他に、数学を村の子供達に教えることでした。当時は英語も上手ではなかったので本当に苦労しました。それでも興味津々に子供達が聞いてくることにやりがい

を感じていました。そして最も印象的だったことは「数式は世界共通である」ということ。多少英語が出来なくとも数式を見れば子供達に問題は伝わります。この経験が後々、自分が大学で研究をすることへのきっかけとなったと思います。そして活動も終わりに近づいた頃、彼らに言われたことがあります。

「No money is no poor」

お金がないことが貧しいのでない。心が貧しいこと、夢がないことが本当の貧しさだと彼らは言いました。彼らはお金や物は持たないかもしれない。でも目が輝いている。それを見て日本はなんて貧しいのだろうと感じました。同時に、自分が恥かしくなりました。彼らを「助けてあげよう」といった思いをもって村に来た自分はなんて「おこがましく、強情だろう」と。彼らの言葉や生き方が自分の生き方を変えてくれました。

最後の夜、仲間達とこれからについて語りました。「CFF に就職する」と言う人もいれば、「医者として日本で経験を積んでからまた戻ってくる」という人、「自分たちではこの現状は変えられないから日本でできることをする」と言う人もいました。

自分は何を感じたかという、「教育の必要性」でした。いくら道路が出来たからと言え、朝4時に起床し、水を汲み、動物を狩り、家族のご飯を作り、それから学校に向かう。彼らには勉強をする時間がなく、そして教材もない。「もし村の近くに学校があったなら」「もし学習教材があったなら」。子供達はもっと可能性を持てるかもしれない。

そのために何をすべきか分かりません。ただ今できることは日本でできる支援活動を続け、いつでも海外に出る準備をすること。幸運にも自分の周りには自分の夢に興味を持ってくれる仲間や教え子達があります。今、彼らと様々な計画を練っています。すぐにはできないかもしれない。それでもいつかあの村に戻り、子供達の教育に貢献したいということが自分の夢の一つです。

皆さんに伝えたいのは、「夢や目標は簡単に見つかるものではない」ということ。よく周囲が言います。「夢や目標があるから頑張れる。だから目標を早く決めよう」と。本当でしょうか？夢の安売りはやめてほしい。自分はその逆だと思っています。「頑張っているから夢や目標が生まれる」。今、目標がなくて自分は価値がないと苦しんでいる人。そんなことはない。そのうち見えてくるから焦らないで下さい。自分は20歳で夢の一つを見つけました。この先、何がきっかけで見つかるか分からない。だけど頑張っていなければ目標もチャンスも来ない。だからこそ今の学校生活で勉強や部活、やれることを真摯にやって欲しいと思います。自分が教員として一番伝えたいことかもしれない。焦らず、けど真摯にやる。長くなりました。いつか皆さんが本当の夢を見つけることを願っています。(高橋)



2. 7月進研模試が始まります

「先生、私は〇〇大学に行きたいんですが行けますか？」3年生の名前も知らない子です。自分が進路に詳しいという噂を聞いて相談にきたそうです。しかし、どこか自信がある様子。担任から何とかなるだろうと言われていたそうです。彼女の模試の分析を始めると、現実が見えてきました。私が彼女に告げたのは

「受かる可能性は0%。浪人しても多分無理」

彼女は驚きを見せつつも怒った表情で私に「何で!？」と言う。理由は簡単、

「2年の偏差値+5が最大の偏差値だから」



3年生の模試から「浪人生」が来る。「新潟高校や長岡高校」の子達は部活を引退した3年7月から一気にギアを上げる。3年までにアドバンテージがない子達はただの踏み台にされる。これが受験の現実。つまり「上げるのは今しかない」ということ。彼女の目標偏差値は50。彼女の偏差値は40。はっきりいいます。不可能です。しかも浪人も現役+5が限界だから。

自分の教え子のように高2の冬から偏差値を40から55まで上げた生徒もいます。それは彼女の死ぬほどの努力とアドバイスを聞く素直さがあったから。

泣き出すその子は「どうしたらよいか?」と聞いてきたので、私は勉強時間を聞きました。すると「1日1時間」。無理です。そこで私が伝えたのは「1日5時間。今からやれば20%まで上がる。」それを聞いたその子は今、毎日私に勉強時間の報告に来ます。

生徒の皆さん、保護者の皆様、「今しかない」ということを何とかお伝えしたい。学歴は関係ないと言う大人がいますが、私の考えは「学歴が全てではない。が、大きく影響する」です。最近、有名企業の採用担当の仲間と飲んだときに「学歴は見るのか?」と聞くと答えは、

「国公立と MARCH 以上は見る。他は一切見ない。」

です。企業の現役採用担当が言っているのだからこれが現実。今ならまだ変われます。是非7月模試に向けてスタートを切ってください。保護者の皆様よろしく申し上げます。(高橋)

3. 保護者面談のお願い

昨年と同様、7月~8月にかけて保護者面談の実施を予定しております。各担任から今週中に案内が参りますので、面談希望日の提出をお願い致します。是非3年生に向けて進路など様々なお話をできればと考えております。よろしく申し上げます。

令和8(2026)年度 7月 行事予定

日 曜	学校行事関係	検診・部活動関係 他
1 水	○ 立会演説会・壮行会(6) いじめアンケート	
2 木	○	
3 金	○	
4 土	進研記述模試③ 看護模試	卓球審判講習会(十日町)
5 日		
6 月	○ 短縮50分 避難訓練	
7 火	○	
8 水	○	
9 木	○ PM	
10 金	○	
11 土		
12 日		
13 月	○	
14 火	○	
15 水	○ AM	
16 木	○ 大学見学①	
17 金	○	
18 土		
19 日		
20 月	○ 海の日(祭日)	
21 火	○ 短縮45分 総合学力テスト①② 進路G③	
22 水	○ PM	
23 木	○	
24 金	○ 終業式 認証式 大清掃	
25 土	全統共テ模試③	
26 日	↓ 夏季休業	
27 月	補習Ⅰ期(①②~7/31 ③~8/7) 面談週間	救急法講習会(生徒)
28 火		
29 水		
30 木		
31 金		